



令和3（2021）年度「不登校を考える学習会」（第1回）を行いました。

2021. 7.17(土) 小郡市人権教育啓発センター

## 演題：子どもの心の健やかな成長のために心がけたい大事なポイント ～相談・援助事例から考える心理的な理解と対応～

講師：福岡女学院大学 人間関係学部 心理学科 教授（臨床心理士・公認心理師）大迫秀樹さん



2月に予定していた内容の学習会でしたが、度重なる緊急事態宣言のために2回の延期を経て、ようやく開催することができ、多くの方に参加いただきました。

定員を超えるお申し込みをいただき、参加をお断りした方につきましては、大変申し訳なく思っております。

講師の大迫秀樹さんは、京都府警や福岡県庁に勤めたご経験があり、現在、福岡女学院大学で臨床心理学、福祉心理学、司法・犯罪心理学をご専門にされています。

学習会の内容を下記に記します。

### ○ 感じていることの理解と感情の言語化

幼少期の関わりが、その後の人生に大きく影響を及ぼすことをいくつかの例をあげて話されました。

この学習会でも度々「傾聴」の大切さが言われていますが、「傾聴」とは一言も漏らさず聴くことではなく、「どういう気持ちでこの行動に至ったのか」「その行動の直前（または直後）の気持ちは？」など、「（本人の課題などを）直そうとするのではなく、気持ちをわかろうとすること」「非なる言動（行動）は認めないが、気持ちは受容する」ことが原則であることを話されました。例えば、万引きをした子どもとの面談事例では、「さみしさを物で埋めようと思った」などの気持ちを吐露する子もいることから、感情を言語化することはとても大切であると言われました。この万引きの事例は、「さみしさ」から好ましくない行動をとっている例ですが、「さみしさ」など「好ましくない行動をする原因となる感情」を埋める代替行為の提案も必要とのお話がありました。

### ○ 「子どものため」を見つめ直す

保護者は、「子どものため」と思って試行錯誤しながら子どもと向き合っていると思います。しかし、「子どものため」という理由のもとに、親の欲求を押し付けてしまうところがないかについて話されました。

子どもは本来、天真爛漫なわがままさがあるものです。それを異常に押さえられると、大人になって人に頼れなくなってしまう（抱え込みすぎる）、人間関係を力関係として見てしまったりする弊害が出てくるようになります。家の中でわがまを言われると腹が立つと思いますが、家の中で多少のわがまが出ながらも、学校や園でしっかりしているのならば、健全な発達だと思っていけないのでしょうか。

### ○ みんなが「発達障がい」（非定型発達） — 程度と質が違うだけ

発達障がいは、「ある」か「ない」かで考えがちですが、誰もがこだわりを持っていることがあり、誰もが人と違う部分を持っているものです。専門的には、人と違った発達をしていることを「非定型発達」というのですが、それは先天的なものです。「あの人、変わっているけれど、それも個性だよな。」という寛容性が減ってきているのではないかというお話もありました。

発達障がいの問題ではなく、そのことへの不適切な対応や無理解が子どもの育ちを阻害する原因となることが多いです。「こだわりの最大値を100とすると、あなたのこだわりはいくつくらい？」と自分を問うと、発達障がいを理解する視点になるのではないのでしょうか。みんなが「発達障がい」（非定型発達）であり、程度と質が違うだけであるという観点で見ることが大切であるというお話がありました。



## 参加者アンケートより

- 具体的な事例をもとに、たくさんのお話をされ、とても興味深かったです。幼少期の不適切な関わりがその後の成長や人生に大きく影響を及ぼすことがよくわかりました。支援が必要な子どもの対応のしかたなど、参考になる話も聴けてよかったです。
- 支援の具体的な方法が聞けてよかったです。安心していられる場、信頼をつくっていき、本音を話せる関係をつくっていきたいと思います。
- 虐待をしているつもりは決してありませんが、大人の欲求・要求が行き過ぎると子どもにとって有害となる場合もあるという説明には、ハッとさせられるものがありました。
- 幼児期の関わり大切さをあらためて感じました。具体的な事例も交えながらわかりやすいお話でした。
- カウンセリングマインドが大切と知ることができて参考になりました。できるだけ理解することに意識を置いて、気持ちを受容するように努めたいと思います。
- 非行に関しては、現実の問題とつなげられず難しく感じましたが、後半の「みんなが発達障がい」「非定型発達」「良い特性をしっかり伸ばす」を子どもの気持ちの対し方に覚えておきたいと思いました。
- 大迫先生のやさしい語り口でわかりやすい講演ありがとうございました。うちは数々の悩みを抱えています。親としては子どもを支え、少しでも楽に生きていけるよう支援してあげたいと思っています。
- もう一度子育てがしたいと思いました。
- 今までの考えに本日の講演があてはまることが大変多くありました。高齢ですが、家族とともに考えていきたいと思っています。

## ○ 学習会を終えて

学習会の内容自体は、大迫先生のご経験を含めた専門的なお話も多くされましたが、学習会終了後の交流会での話題は、実際に子どもと接する保護者や地域の方の質問や悩みをもとにした、不登校生への関わり方や解決法に関する話が多く出ました。コーディネーター役も大迫先生にいただき、やさしい口調での話し振りが、交流会参加者の心の内を話す雰囲気につながり、あたたかい気持ちになる時間でした。

アンケートに書いていただいたご意見・ご要望なども考慮し、今後も、発達障がいや不登校生に関する専門的な見地からのお話、実際に不登校生に関わってある方の目線から見たお話など、多様な形の学習会を計画してまいります。また、保護者目線でのお話ができる交流会も、今後も続けていきたいと思っていますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

(次回は、10月の開催を計画しております。)